

真偽問題 正しいものは「1」、正しくないものは「2」にマークしなさい。

- 問(1) 「Gis」と「As」は、異名同音である。
- 問(2) 音速は、波長と振動数の積である。
- 問(3) コンサートホールの残響音は、音の回折という性質によるものである。
- 問(4) ソナタ形式は、2つの主題と2部構成で作曲される。
- 問(5) 5年に一度開催されるショパン国際ピアノコンクールで演奏される曲は、すべてショパンの作品である。
- 問(6) モーツァルトが使用した時代のウィーン式アクションのピアノには、ダンパーペダルはなかった。
- 問(7) グランドピアノの鍵盤で、フロントピンからバランスピンまでの長さでバランスピンからキャプスタンスクリューまでの長さの比は、およそ3 : 2である。
- 問(8) カエデはスプルースより比重が大きい、値は1より小さい。
- 問(9) アクションのスプリング類は、真鍮製である。
- 問(10) チェンバロの有効弦長は、駒とプレクトラムの位置で決まる。
- 問(11) 61Aでユニゾンの唸りが秒間1回の場合、約2セントずれていることになる。
- 問(12) テーラーの公式を用いると、倍音構成が算出できる。
- 問(13) 最低音部のオクターブ検査には、オクターブ長7度が有効である。
- 問(14) 音叉の先端部を削ると、ピッチが上がる。
- 問(15) グランドピアノのダンパーストップレール調整は、鍵盤を押えた時の遊びをゼロにする。
- 問(16) グランドピアノのシフトペダル調整は、ペダルを踏み込んで、3本弦が完全に1弦打弦しないように調整する。
- 問(17) グランドピアノのハンマー接近（レットオフ）は、アクションの働き量に影響するが、ハンマー戻り（ドロップ）はアクションの働き量に直接の影響はない。
- 問(18) カラ直し（ロストモーション）の調整は、「ジャックとバットスキンの隙間」と「ハンマーシャンクとハンマーレールクロス」の隙間が、同時にゼロになるようにすることである。
- 問(19) 整音作業におけるハンマーへの針刺しは、ハンマーフェルトの頂点を避けて行う。
- 問(20) 整音の目的は、ピアノの音を柔らかくすることである。
- 問(21) グランドピアノのジャックのきしみ音を取るには、ハンマーシャンクローラーのスキン部に黒鉛を塗る。
- 問(22) センターピンのトルクは、フレンジが自重でゆっくり下がる状態では、トルク不足である。
- 問(23) 日本国内販売の日本製ピアノのアクション部品の提供は、取扱説明書・保証書に永久保証が明記されている。
- 問(24) アップライトピアノのハンマー交換時にキャッチャーの高さを調整するには、ハンマーシャンクプライヤー（コテ）を使用する。

問(25) 消音型アップライトピアノのハンマー接近（レットオフ）は、ハンマーストップ（バックストップ）を基準に調整する。

多肢択一（5択）問題

各問から、適切なものを1つ選びなさい。2つ以上選ぶと誤答になります。

問(26) 以下の速度に関する用語で、一番速いものを選びなさい。

1. Andante
2. Adagio
3. Moderato
4. Lento
5. Largo

問(27) 以下のの中から正しいものを1つ選びなさい。

1. イ短調の調号は、シャープが2つである。
2. ト長調をイ長調に移調すると、調号のシャープが1つ増える。
3. ニ短調の平行調は、ヘ長調である。
4. ハ長調の下属音は、Gである。
5. 自然短音階は、上行と下行で音が異なる。

問(28) 以下のの中から正しいものを1つ選びなさい。

1. ドビュッシー作曲のピアノ曲「月の光」は、「子供の領分」の中の1曲である。
2. モーツァルトの「トルコ行進曲」は、ピアノ協奏曲の最終楽章につけられた名称である。
3. ベートーヴェンの「皇帝」は、ピアノソナタにつけられた名称である。
4. ショパンは、ピアノソナタを作曲しなかった。
5. ムソルグスキーは、組曲「展覧会の絵」をピアノ独奏曲として作曲した。

問(29) 以下のの中から正しくないものを1つ選びなさい。該当するものがない場合は、5を選びなさい。

1. 鍵盤材に用いられる樹種は、スプルース、トウヒなどの針葉樹である。
2. アクションに用いられる木材の樹種には、カエデ、シデ、カバなどがある。
3. 響板材の乾燥は、天然乾燥後に人工乾燥し、含水率を10%以下に下げる。
4. ピン板は、カエデ材などを積層にして用いることが、一般的である。
5. 1～4に該当なし。

問(30) ピアノの手入れ・使用環境について、記述が正しいものを1つ選びなさい。該当するものがない場合は、5を選びなさい。

1. キークリーナーは、アルコールが主成分で、アクリル樹脂製・フェノール樹脂製の鍵盤の抗菌対策に最適である。
2. ピアノを床暖房装置の上に設置することは、床暖房装置には加重による影響、ピアノには熱による影響が生じるので好ましくない。
3. ピアノにとって湿度は大敵であるので、オールカバーによって湿度対策をとる。
4. ピアノに最適とされる使用環境は、温度15～25℃、湿度30～50%と言われる。
5. 1～4に該当なし。

問(31) ピアノの発達史に関する事柄で、年代の最も古いものを選びなさい。

1. チッカーリングの総鉄骨特許
2. エラールのレペティションアクション完成
3. ホーキンスの堅型ピアノ特許
4. トーマス・ラウドの交叉弦特許
5. ワイヤーを作るダイヤモンドダイスの出現

問(32) フレーム（鉄骨）について、正しいものを1つ選びなさい。該当するものがない場合は、5を選びなさい。

1. フレーム（鉄骨）は、17世紀初頭から用いられるようになった。
2. 20トンに及ぶピアノの張力は、フレームでそのほとんどを支えている。
3. 鉄骨フレームの素材には、高純度の炭素鋼が用いられる。

4. Vプロと呼ばれる鋳造法は、砂型に含まれる空気を減圧する工程が含まれる。
5. 1～4に該当なし。

問(33) 平均律割振で、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。基音は37A、音域は、33F～45Fとする。

1. A-Eが純正の時、Eは高めにずれている。
2. F-A（長3度）の唸りは正しく、F-D（長6度）の唸りがF-A（長3度）と同じ場合、Dは低い。
3. F-A（長3度）の唸りが遅く、A-C#（長3度）が遅い場合、F-C#は、800セントより狭い。
4. 長3度の唸りの回数は、この音域では半音上昇ごとに、0.5回/秒ずつ増加する。
5. 1～4に該当なし。

問(34) ピッチについて、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 1834年のシュツットガルト会議において、A=440Hzが定められた。
2. オーケストラでは、コンサートマスターのヴァイオリンがピッチの基準音とされる。
3. 現在、A=415Hzがバロック時代の楽器のピッチとしてよく用いられている。
4. ピアノ調律でピッチ変更の場合、上げ調律の方が下げ調律より安定しやすい。
5. 1～4に該当なし。

問(35) 音階・音程について、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 純正調音階は、調律に用いる音程の唸りをゼロにする。
2. ミーントーン（中間音整律）の長3度には、きわめて唸りの多いものが含まれる。
3. ハ長調の純正調長音階の場合、E-FとB-Cの音程は、両方ともにセント法で112セントである。
4. ピタゴラスコンマは、純正5度を12回繰り返すことで生じるズレで、24セントである。
5. 1～4に該当なし。

問(36) ピアノを平均律で調律した場合、34F#と38A#の関係で正しいものを一つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 共通倍音は50A#付近である。
2. 共通倍音は70F#付近である。
3. 33F-37Aの唸りが秒間6.9回の場合、34F#と38A#の唸りは秒間約7.0回となる。
4. 33F-37Aの唸りが秒間6.9回の場合、34F#と38A#の唸りは秒間約7.5回となる。
5. 1～4に該当なし。

問(37) 問(37) ピアノを平均律で調律した場合、以下の中から正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 44Eから、オクターブで56Eを調律した場合、検査音程は40C-44Eと40C-56Eの唸りの比較が有効で、それぞれの唸りが同回数であれば、オクターブは正しい。
2. 34F#から、オクターブで46F#を調律した場合、39B-46F#の唸りと41C#-46F#の唸りの比率が、1:2の整数比の関係になれば、オクターブは正しい。
3. 最高音部の検査音程は、2オクターブ・3オクターブまたはオクターブ完全5度・2オクターブ完全5度などが有効である。
4. 低音オクターブ33Fと21Fで、24G#と21Fの唸りが24G#と33Fの唸りより少ない場合、21Fの音は低い位置にある。
5. 1～4に該当なし。

問(38) タッチについて、正しくないものを1つ選べ。

1. アップライトピアノのジャックストップレールの隙間が広いと、ハンマーが弦を2度打ちすることがある。
2. 鍵盤の深さ（あがき）が極端に浅いと、ハンマーが弦を2度打ちすることがある。
3. ダンパー止音は、鍵盤の深さを約1/2戻した位置である。
4. 同音連打の性能は、演奏の際のp（ピアノ）とf（フォルテ）で差が生じる。
5. アップライトピアノで、キャプスタンボタンの位置を奥に調整すると、タッチが重めになる。

問(39) アップライトピアノの整調について、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. ハンマーストップ（バックストップ）は、高音より低音を広めに調整する。
2. カラ直し（ロストモーション）を調整すると、ハンマー接近（レットオフ）の寸法が変化する。
3. 打弦距離は、ハンマーレールの位置を変え、関連工程を再調整することで変更できる。
4. ダンパー総上げを調整すると、スプーン掛けに影響が出る。
5. 1～4に該当なし。

問(40) 整調の関連工程の記述として、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. ハンマー接近（レットオフ）を調整すると、ハンマー戻り（ドロップ）に影響が出る。
2. 打弦距離を変えても、ハンマー接近（レットオフ）とハンマーストップ（バックストップ）を再調整する必要はない。
3. グランドピアノのダンパーペダルストップ（ラウドレバーストップスクリュー）調整を行うと、ダンパーペダルの袋ナット（ペダル突上棒ヘッド）調整を行う必要がある。
4. 鍵盤の深さ（あがき）を浅くすると、ハンマーストップ（バックストップ）は広くなる。
5. 1～4に該当なし。

問(41) ダンパー関連の調整について、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. ダンパーペダルの遊び調整は、ダンパーペダルの踏み代の1/3の位置で、ダンパーが動作を開始するように調整する。
2. ダンパーが動き始める位置（掛かり）は、グランドピアノの場合、打弦距離がおよそ半分になるまでハンマーが上昇した位置である。
3. アップライトピアノでは、スプーン掛けにより、ダンパー始動（掛かり）を調整する。その結果、ダンパーの上がり量も変化する。
4. W型のダンパーフェルトで止音不良がある場合、止音不良が生じている側のフェルトの幅を調整する。
5. 1～4に該当なし。

問(42) アップライトピアノのアクションの働きについて、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. ハンマー接近（レットオフ）を狭くすると、働きは小さくなる。
2. キャプスタンボタンを手前に調整すると、働きは大きくなる。
3. 打弦距離を変更し、整調をし直した場合、働きに変化を生じる。
4. 鍵盤の深さ（あがき）を深くすると、働きは大きくなる。
5. 1～4に該当なし。

問(43) 整音の作業として適切でないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 針刺しは、フェルトの収縮を見越して、多めに入れるとよい。
2. 針刺しの深さは、低音では深く、高音では浅くする。
3. 針刺しの方向は、放射状になるように刺す。
4. 極端に鳴らなくなった場合、ラッカー、コロジオンなどの硬化剤をハンマーに塗る。
5. 1～4に該当なし。

問(44) ハンマー整形（ファイリング）の作業として適切でないものを1つ選べ。

1. ペーパーは、板に貼って使用すると良い。
2. ハンマーの弦跡が大きくなった場合は、ペーパーをかける。
3. ペーパーかけは、弦跡は完全には除去せずに残す。
4. 複数の弦が同時に当たっていない場合、ハンマーフェルトにペーパーをかけて調整する。
5. 低音部をシューシャインという方法でペーパーをかけると、打弦点が揃うメリットがある。

問(45) 次の記述で、適切でないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 弦のこじ角が大きいと断線を招くことがある。
2. 弦のこじ角が小さいと音量に影響が出る場合がある。
3. 巻線ジンの場合、銅線を締める方向にねじって張り直すと改善されることがある。
4. 断線が多発する場合、弦の番手を上げると断線頻度が改善できる。

5. 1～4に該当なし。

問(46) 次の記述で、適切でないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. アップライトピアノのジャックフレンジがスティックすると、発音できなくなることがある。
2. 鍵盤フロントブッシングクロスは、フロントピンとの摺動部の長さを7mm前後にする。
3. センターピン交換では、木部合わせを優先してセンターピンの太きを選ぶ。
4. グランドピアノのハンマーシャンクフレンジのトルクは、レペティションスプリング調整に影響する。
5. 1～4に該当なし。

問(47) 次の記述で、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 鍵盤鉛が緩むと雑音が生じたりするが、その際は再度かしめることで対応する。
2. 断線は金属の疲労が原因する。
3. 断線を放置すると、隣接する弦が切れやすくなる。
4. 響板割れは、湿度が高い環境下で起こりやすくなる。
5. 1～4に該当なし。

問(48) 次の記述で、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. アップライトピアノのバットフェルトは、クッション性を高めるため、フェルトの上側(1/2～2/3)を接着する。
2. グランドピアノのバックチェックスキンは、両端を接着する。
3. グランドピアノのダンパーガイドレール(ダンパーホルダー)のブッシングクロスは、非接着である。
4. グランドピアノのペダル交換は、ペダル箱の底板を外す必要がある。
5. 1～4に該当なし。

問(49) 次の記述で、適切でないものを1つ選べ。

1. ハンマー交換を行う場合、純正部品を使用すれば、鍵盤鉛の調整が省略できる。
2. 黒鍵を剥がす場合、アイロンなどで加熱する。
3. グランドピアノのダンパーが下がらなくなる原因に、ダンパーブロックフレンジ(ダンパーワイヤーフレンジ)のスティックがある。
4. グランドピアノのダンパーが下がらなくなる原因に、ダンパーガイドレール(ダンパーホルダー)のブッシングクロスのスティックがある。
5. 鍵盤が反ると、鍵盤が戻らなくなることがある。

問(50) 消音型ピアノや自動演奏ピアノの点検・調整・構造の記述として適切なものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. ピアノ内部を調整する際は、安全のため電源プラグを抜く。
2. 消音ピアノの場合、センサーの調整後にペダルの整調を行う。
3. 自動演奏ピアノのペダルは、油圧で駆動している。
4. 内蔵する電子音源がサンプリング音源の場合、ピッチが固定のため、A=440Hzに調律する必要がある。
5. 1～4に該当なし。